

東田小学校学校運営協議会令和5年（2023年）度

<2023年（令和5年）8月28日（月）> 会長挨拶 23-RO-3

日本の学校では小学校、中学校、高等学校、大学の学期は4月から始まり翌年3月までの1学年でその間に夏休み、冬休み、春休みと3回の学校の休みがあり、そのなかでも夏休みは子供にとって一番長い休みとなる。この新学期の始まりを夏休み後から開始しようとの試みもあったがなかなかこの新学期の変更はうまくいかない。

日本の夏は湿度が高くまさに今年も猛暑である。この気候のため学校が長期間の夏休みを設定していることは理にかなっている。

日本での夏の長期休暇についてはどうであろうか？欧州でいう *Vacance*、*Vacation*（英国では *Holiday*）を最低2-3週間の期間家族と過ごすために夏休みをとることは当然のことであるが、日本では残念ながら明日への活力とするような制度、習慣はまだまだ一般的になっていない。日本では現在でも有給休暇制度の長期期間取得（2週間以上）がなかなか普及していないのが現実である。そのためもあり、日本では法定祝日が非宗教的な独特の祝祭日休日が16日もあり皆一緒に休める、さらに年末から正月の正月休みとお盆休みという慣習としての休日がある。

このような祝祭日と慣習上の休日の組み合わせのため、日本では全国的に一斉に旅に出かけるので交通機関、宿泊設備、高速道路は大混雑となる。子供にとってこのような大混雑の条件下での<休日>を親と同行せざるを得ないことは全く理不尽としか言えない。

すばらしい日本の観光地は外国人旅行者が大いに楽しんでくれることは嬉しいことであるが、日本の子供たちと一緒に親が（勿論教師も）ゆったりと休暇を楽しめるような長期休暇制度の普及を漸進的に進めることがこどものためにもこれから必要で在る。

また家族という私的な旅行以外に学校で行う【修学旅行】【社会見学小旅行】【臨海学校】【林間学校】は全く異なる子供同士の親和力を高める素晴らしい思い出をつくる機会ともなるので、創意工夫をしてさらに内容を充実すべきだろう。

私的なことで恐縮ながら、西田小学校時代の1951年（昭和26年）5学年の夏の富津海岸の臨海学校の思い出；両国駅から蒸気機関車で大貫駅までの汽車の旅、宿泊所の大部屋の蚊帳の中での就寝、アジの干物の食事、宿の庭に這い歩く蟹の群れなど鮮明に脳裏に刻まれている。

また1952年（昭和27年）6学年の時の夏の【林間学校；那須高原八幡温泉旅館】；那須茶臼岳登山と夜の星の美しさ<北斗七星>など小学校の思い出として残っている。

小学校時代の学童にとって夏休みは人生の始まりでいろいろ楽しい思い出を創る機会であり、其の意味では教師の役割はきわめて重要であると同時に後に感謝されることになるだろう。

以上

小原理一郎